医学雑誌第 41 巻　編集後記

多くの皆様のご協力により、2016 年度の医学雑誌を刊行することができました。心からお礼を申し上げます。

世界的な政治経済の混乱、テロの問題、日本をとりまく状況の複雑化など、さまざまな面で今後検討しなければならない課題が山積しています。医療界においても、消費税の問題や診療報酬の問題など、ただでさえ厳しい医療をとりまく状況は、依然として混沌としたままで解決の糸口がつかめていない状況です。大局的にはあるべき姿を提示・模索するための政治の役割が大きいとは思いますが、現場で働くそれぞれの職種が、可能な範囲で力を尽くすことの重要性は言うまでもありません。

当院の発行する医学雑誌は、医師のみならず、様々な形で医療に関わっている職員たちが、実際に経験した事例について考え、試行錯誤しながら論文にまとめるといった研究活動を報告する場として設定されています。厳しい医療状況のなかでも、研究活動を病院全体として支援することが重要であり、緊密な連携と協力のもとで、充実感がわくような仕事ができるような環境を整えることが望まれます。その結果である論文が、それを読んでいただいた方に、多少なりとも有意義と感じていただければ、それ以上の喜びはありません。また今後とも継続していきたいと思いますのでよろしくお願いします。

医学雑誌編集委員会　委員長　中村　嗣（感染症科部長）